

1. 科目名 (単位数)	幼児教育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6312
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	幼児教育特論を履修後の2年次が望ましい。	履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	<p>幼稚園、保育所、認定こども園等における実践に関する論文・報告書の講読、および保育現場への参加観察等を通して、複雑な実践状況を的確に把握し、課題等を発見し、改善への方策を考える力を養う。保育の具体的状況についての展開過程の分析、子どもと保育者との関係や内面の理解について演習形式で学ぶ。加えて、近年重要度が増している保護者支援を向上させるため、現代日本の家族の状況について探求する。授業参加者の基礎体験、保育についての知識の量に幅があることが予想される。保育を取り巻く現実的問題を導入として、現在の保育実践法の理解へと進める。授業の進行状況に合わせて、柔軟な進行を考えている。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、保育現場への参加観察は代替内容 (DVD 資料等) となる可能性がある。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活と経験の基本的特質の理解を深める。</li> <li>2 現在の、多様な幼児教育実践法の違い、実践上の課題を理解する。</li> <li>3 文献 (実践に関する論文・報告書等) からの読み取りと実践現場における読み取りの両方を目指す。</li> <li>4 実践状況を分析的にとらえる力を養う。</li> <li>5 実践を捉える視点もち、的確に評価できるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活実態、幼児教育の社会的位置づけや理解、保護者の意識期待等今日的課題を念頭に、幼児教育の目標に即して幼児教育実践について考察してレポートする。(レポートの書き方、資料等については初回の授業にて伝える)</li> <li>2 幼稚園、保育所、認定こども園のいずれかを観察し、または資料によって生活の実践記録を研究し、保育実践法、子どもの生活実態、保育上の課題をレポートする。(観察園、資料、記録のとり方、分析、まとめ方は事前に打ち合わせる。)</li> <li>3 多様な保育実践法 (例; 縦割り保育、ティーム保育、野外保育、モンテッソーリ法、その他) から 1、2 の例を選択し、保育見学または資料を通して、その実践が目指している理念とその実践状況、教育効果の関連を分析し、レポートする。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 「幼稚園教育要領」 (平成 29 年告示) 「保育所保育指針」 (平成 29 年告示) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (平成 29 年告示)</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房、2007 年 厚生労働省「子どもを中心に保育の実践を考える」2019 年、 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf</a> 日本保育協会「保育実践研究・報告集」2022 年 <a href="https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html">https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html</a> ソニー教育財団「保育実践事例検索」 <a href="https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209">https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209</a></p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献の研究目的、方法、結果、考察の関連の理解ができ、要点をまとめることができるか。</li> <li>2 わが国の保育制度、保育の実践実態についての知識、理解の習得と共に自分なりの見方ができるか。</li> <li>3 現場の観察記録と保育の考察ができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>日常の授業態度 (発言、出席状況) 40% 課題レポート 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児教育の理論や実践について、時代の流れや識者の意見にとらわれずに、真に「実際に即して」「子どもを通して」考える姿勢を大切にします。また、文献を丁寧に読み、論文作成法を学ぶと共に、率直に疑問をもち、課題を発見するようにして下さい。</p> <p>授業では、分からないこと、知らないことを自由に出し合える雰囲気を作りたいと思います。</p>		
13. オフィスアワー	時間割が決められてから、指定します。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 1 : 保育所・幼稚園と家族の変化		
【学習の目標】	保育の場を社会全体の中で位置づけることができ、その近年の変容過程について理解する。		
【学習の内容】	保育所・幼稚園・認定こども園の違いを確認した上で、家族のここ 30 年間での変化、および女性のキャリア形成の変化について探求し、討論する。		
【キーワード】	保育所、幼稚園、家族、共働き、M 字型、待機児童 保護者支援		
【学習の課題】	保育現場を社会の中に位置づけることができ、保育現場が抱える今日的課題がなぜ生じたのか、その課題にどのように取り組むべきなのかを、明示できるようになる。		
【参考文献】	『令和 4 年版 男女共同参画白書』内閣府、2022 年 『第 16 回出生動向調査』国立社会保障・人口問題研究所、2022 年		
【学習する上での留意点】	新聞などで保育に関する時事ニュースを読んでおくこと。		
3～4. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 2 : 子どもの生活実態と発達		
【学習の目標】	現代という生活環境と子どもの育ち方から幼児教育のあり方を考える。		
【学習の内容】	現代人の暮らし方の子どもの発達への影響を、幼児に相応しい生活の保障内容の観点から考察する。		
【キーワード】	都市化、効率優先、急かされる環境、生涯発達における幼児期の意味		
【学習の課題】	保育と教育・養護の関連を明確にし、幼児期に必要な体験を確認する。		
【参考文献】	渡部信一『ロボット化する子ども一学びの認知科学』大修館書店、2005 年 岡野雅子『現代の時間的環境における保育に関する研究』風間書房、2011 年		
【学習する上での留意点】	現代社会が幼児期の自発的、主体的な発達環境としてどのような特徴をもっているのか、常識的一般論にとらわれずに客観的実証的に考える。		

5. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 3： 幼保小連携・接続
【学習の目標】	「幼稚園教育要領」保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について、幼保小の連携・接続の観点から内容を十分に理解する。
【学習の内容】	「教育要領」「保育指針」「認定こども園教育・保育要領」を熟読し、両者のつながり及び小学校との接続を踏まえて、キーワードを中心に全体像を理解する。
【キーワード】	保育、教育、3つの資質・能力、10の姿、幼保小の連携・接続、カリキュラム
【学習の課題】	(1) 現行の「教育要領」・「保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の特徴はどこにあるのか。 (2) 幼保小連携・接続について現行の「教育要領」「保育指針」「認定こども園教育・保育要領」はどのように対応しているのか。
【参考文献】	「幼稚園教育要領」(平成 29 年告示)・「保育所保育指針」(平成 29 年告示)・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 29 年告示)
【学習する上での留意点】	告示を関連法令等とのつながりを把握した上で理解するよう努めること。
6. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 4： アプローチカリキュラム
【学習の目標】	幼保小連携と幼保小接続がこの 20 年でどのように社会的に要求され、実践されてきたのかを探究する。
【学習の内容】	事例をもとに、保幼小連携がどのように進められ、それが今後のカリキュラムレベルでの保幼小接続へとどのように進展してきているのかを討論する。
【キーワード】	幼保小連携、幼保小接続、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム
【学習の課題】	保育実践現場においてアプローチカリキュラムを作成できるようになる。
【参考文献】	「保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集」文部科学省、2009 年 <a href="https://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/dl/h0319-1a.pdf">https://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/dl/h0319-1a.pdf</a> 「幼児教育、幼小接続に関する現状について」文部科学省、2015 年 <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryof/_icsFiles/afieldfile/2015/05/25/1358061_03_01.pdf">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryof/_icsFiles/afieldfile/2015/05/25/1358061_03_01.pdf</a> 豊田和子編『実践を創造する 演習・保育内容総論 [第 2 版]』みらい、2018 年
【学習する上での留意点】	子どもの生活や人間関係の展開等保育のプロセスを具体的に、また子どもの立場からとらえて考察する。環境に規定される子どもの立場と子どもの適応への過程に着目する。。
7～9. テーマ	幼児教育実践研究 1： 幼児の自己充実
【学習の目標】	倉橋惣三の保育論、状況的学習論、系統的教育の有効性を考える。
【学習の内容】	幼児が充実する、生活の中で学ぶ、環境を通しての保育等の意味を、保育実践との関係で考える。論文購読、保育実践 DVD 資料についての討論。
【キーワード】	自己充実、充実指導、生活と学習
【学習の課題】	幼児の発達経験、幼児の主体的学びとは、それはどのように保育者に支えられているのか、その過程について理解する。
【参考文献】	倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2008 年 津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房、2000 年
【学習する上での留意点】	保育は「子どもと保育者のかかわりである」ことを踏まえること。子どもが体験していること、そこで起こっていることを実感をもって感じ取ること。
10～12. テーマ	幼児教育実践研究 2： 保育的關係形成と省察
【学習の目標】	保育者は、実践体験者としてどのようにして幼児と関係を結び、保育を展開するか、自分の保育を振り返り、他者との共有、その過程おとも困難さ等を理解する。
【学習の内容】	幼児教育・保育は、保育者と幼児の保育的關係の形成が基盤にあること、幼児の行動を保育者に向けられた表現と捉え、どのようにして活動を支え、充実・発展を図るか。保育者個々の体験をどのようにして共有するかについて考察し、討論する。
【キーワード】	保育行為、保育者と幼児の相互作用、幼児の行為の解釈、保育の省察
【学習の課題】	保育的關係形成はどのようになされるのかについて理解する。
【参考文献】	津守真『保育の体験と思索』大日本図書、1999 年
【学習する上での留意点】	概念的な言葉を自分の言葉で吟味し、説明し、実感として受け止め、討論するようにすること。
13～15. テーマ	幼児教育実践研究 3： 実践事例の検討
【学習の目標】	多様な保育の実際を知り、自らの保育実践に生かす。
【学習の内容】	多様な保育の根拠を読み取り、保幼小接続の根本を踏まえて、PDCA サイクルを念頭に実践事例を検討し、その結果に基づいて討論する。
【キーワード】	カリキュラム、記録、PDCA サイクル
【学習の課題】	各自が身近な保育実践、または課題性を感じる保育実践例を詳細にレポートし、討論を通して評価しあう。レポート内容および期日は事前に打ち合わせる。
【参考文献】	鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房、2007 年 厚生労働省「子どもを中心に保育の実践を考える」、 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf</a> 日本保育協会「保育実践研究・報告集」、 <a href="https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html">https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html</a> ソニー教育財団「保育実践事例検索」 <a href="https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209">https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209</a> ほか、後日、関連論文を指定する。
【学習する上での留意点】	自分の視点からの「保育実践を見る目」を確かにするために、互いの意見を尊重しつつ、主観や先入観にとらわれずに充分納得いく議論をすること。